

## 「わかる／わからない」を使おう

目標：「わかる／わからない」の意味を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
10	<p>3 「わかる／わからない」の意味を理解し、表現する。</p> <p>① 「わかる／わからない」を使った教師の会話を聞く。 (例)・教師がポルトガル語の単語を見せ「先生、ポルトガル語、わからない」「○○さん、ポルトガル語、わかる？」と聞く。</p> <p>② 教師が他の言語の理解について聞く質問に答える。 (例)「○○語、わかる？わからない？」 →「わからない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校入学への手引(愛知県)など対訳のあるものを使う。</li> </ul>
15	<p>4 「わかる／わからない」の練習をする。</p> <p>① 教師がイラストを示し、「わかる」「わからない」と言うのを聞いて、教師に続いてイラストを見ながら「わかる／わからない」を繰り返す。</p> <p>② いろいろなイラストを見て同様に練習する。</p> <p>③ イラストの吹き出しに「わかる／わからない」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる姿と分からない姿が描かれているイラストを扱うとよい。</li> </ul>
15	<p>5 「わかる／わからない」を使って、インタビューをする。</p> <p>① 友達や先生にいろいろな言語について、分かるか、分からないかインタビューをする。 (例)「○○語、わかる？わからない？」 →「わからない」</p> <p>② インタビューの結果を、「○○さん、○○語、わかる／わからない」と発表する。</p>	<p>★インタビューシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー前後に、挨拶やお礼の言葉を言えるように指導する。 (例)「すみません」 「○○語、わかる？」 「ありがとう」等</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 平仮名を覚えよう16

**目標：「ざじずぜぞ」「だぢづでど」を読んで、書くことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p><b>1 平仮名「ざじずぜぞ」と「だぢづでど」の読み方を練習する。</b></p> <p>① 教師が平仮名表を示して、清音と濁音（さ行とざ行）（た行とだ行）を対応させて読むのを聞いて、まねをして読む。</p> <p>② 「かきくけこ がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>④ 平仮名カードを見て、「ざじずぜぞ」「だぢづでど」を読む。</p> <p>⑤ さ行、ざ行、た行とだ行の平仮名カード一組で神経衰弱をする。（清濁のペア）</p>	<p>★濁音の入った平仮名表（<b>6</b> 参照）</p> <p>★平仮名カード（<b>12</b> 参照）</p> <p>★「かきくけこ がぎぐげごの歌」（<b>6</b> 参照）</p> <p>★「しゃ、しゅ、しよの歌」（<b>8</b> 参照）</p> <p>★平仮名カード（<b>12</b> 参照）</p>
20	<p><b>2 平仮名「ざじずぜぞ」「だぢづでど」が入っている言葉を書く。</b></p> <p>① 「ざじずぜぞ」が入っている言葉を読む 教師の声を聞いて、平仮名を書く。 （例）ひざ、ひじ、みず 等</p> <p>② 「だぢづでど」が入っている言葉を読む 教師の声を聞いて、平仮名を書く。 （例）つづく、はなぢ 等</p>	<p>・「ぢ」「づ」を使う例 ア 連呼 つづく、つづみ、つづら、ちぢむ イ 2語の合成 はなぢ、ごはんぢゃわん、いれぢえ</p>
10	<p><b>3 音読の練習をする。</b></p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・教師が読むのに続けて読ませる。</p> <p>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</p>
<p>★ 音読教材について</p> <p>1回で読み切れるもの、理解しやすいものを選ぶ。一週間を通して同じ本を読む。昔話、伝記など、いろいろなお話から選ぶとよい。</p>		

凡例：・留意点 ★教材

## 曜日・日にち・時計を使おう

**目標：何日を言ったり、聞いたりできる。  
時計の「ふん」と「ぷん」の使い分けができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 挨拶をする。</b> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <b>2 絵本の朗読を聞く。</b> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。	・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<b>3 カレンダーを使った学習の復習をする。</b> ① 曜日の歌を歌う。 ② カレンダーを見て日曜日から土曜日までを言う。 ③ 「昨日／今日／明日」の復習をする。 ・「今日何曜日？」など、児童生徒同士で質問し合う。	<b>★カレンダー (33参照)</b> ・「チューリップ」の替え歌で歌う。 ・ <b>35</b> を参照する。
15	<b>4 ○月○日の言い方を理解して、練習する。</b> ① 月の言い方を知り、練習する。 ・教師がカレンダーをめくりながら1月、2月、3月……12月と言うのを聴き、真似をして言う。 ② 日にちの言い方を知り、練習する。 ・教師が日にちを示して「○日」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・いくつか練習する。 ③ 教師がカレンダーを示しながらする質問に答える。 (例)「今日、何曜日？」 「今日、何日？」等	・ここでは「数字＋にち」だけの練習をする。 (ついたち、ふつか… …といった言い方は練習しない。)
15	<b>5 時計の5分ごとの言い方を練習する。</b> ① 数を5とびで100まで数える。 ② 教師がデジタル時計の絵を見て「6時5分」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・15分、25分……と練習する。 ③ 10分、20分も混ざったもので○時○分の練習をする。 ④ アナログ時計が読める児童生徒は、アナログ時計のイラストを見て○時○分か言う。	<b>★デジタル時計の絵</b> ・5は「ふん」、10は「ぷん」になる音便の変化に気付くようにする。

凡例：・留意点 ★教材

## 平仮名を覚えよう17

目標：「ばびぶべぼ」「ぱぴぷぺぽ」を読んで、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 平仮名「ばびぶべぼ」と「ぱぴぷぺぽ」の読み方を練習する。</p> <p>① 教師が平仮名表を示して、清音と濁音、半濁音（は行とば行、ぱ行）を対応させて読むのを聞いて、まねをして読む。</p> <p>② 「かきくけこがぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>④ 平仮名カードを見て、「ばびぶべぼ」と「ぱぴぷぺぽ」を読む。</p> <p>⑤ は行、ば行、ぱ行の平仮名カード3枚一組で神経衰弱をする。（清、濁、半濁）</p>	<p>★濁音の入った平仮名表（6参照）</p> <p>★平仮名カード（12参照）</p> <p>★「かきくけこ がぎぐげごの歌」（6参照）</p> <p>★「しゃ、しゅ、しよの歌」（8の「拗音の歌」参照）</p> <p>★平仮名カード（12参照）</p>
20	<p>2 平仮名「ばびぶべぼ」と「ぱぴぷぺぽ」が入っている言葉を書く。</p> <p>① 「ばびぶべぼ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、平仮名を書く。 （例）かばん びん 等</p> <p>② 「ぱぴぷぺぽ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、平仮名を書く。 （例）かんぱい かんぺき 等</p>	
10	<p>3 音読の練習をする。</p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・音読教材については、42の「音読教材について」を参照する。</p> <p>・教師が読むのに続けて読ませる。</p> <p>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 「おなじ／ちがう」を使おう

**目標：「同じ」「違う」の意味を理解し、使うことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p><b>1 挨拶をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p><b>2 絵本の朗読を聞く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
15	<p><b>3 「おなじ／ちがう」の意味を理解し、表現する。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 同じイラストと少し違うイラストをまねして描く。</li> <li>② 教師が描いた絵を見て、①は「おなじ」 ②は「ちがう」と言うのを聞く。</li> <li>③ 違うところを示して、「ちがう」と言う。</li> <li>④ 描いたイラストを示して「おなじ」「ちがう」という練習をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★同じイラストと少し違うところのあるイラスト2組ずつ（他にも数組用意する。）</li> <li>・①は二つの同じ簡単な絵、②は少しだけ異なった所のある二つの簡単な絵を使用する。</li> <li>★イラストを描く紙</li> </ul>
15	<p><b>4 「おなじ／ちがう」を使う練習をする。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教師がイラストを指して、「おなじ」「ちがう」と言うのを聞いて、繰り返す。</li> <li>② イラストを見て「おなじ」か「ちがう」を言う。 ・簡単な二つのイラストを見比べる。 →「おなじ／ちがう」</li> <li>③ イラストを見て「おなじ」か「ちがう」を書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の児童には難しい問題が出てくるので、できるものだけ答える。</li> <li>・低学年の児童には、平仮名の「に」「こ」等を比べてどこが同じか、どこが違うかなど、別の課題を与えてもよい。</li> </ul>
10	<p><b>5 自分の国と日本との「おなじ／ちがう」を見つけて、発表する。</b></p> <p>○ 日本と自分の国と同じところ、違うところを考えて書く。「～、おなじ」「～、ちがう」と発表する。 (例)「でんわ、おなじ」 「バーベキュー、おなじ」 「ごはん、ちがう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見つけた児童生徒に発表させ、他の児童生徒は発表を聞くことから考えさせてもよい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★同じ、違うを探すためのワークシート 言葉、食べ物、給食、お金等を日本と比べるシート。</p> </div>

凡例：・留意点 ★教材

## 撥音を覚えよう

目標：「ん」を使えることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																																													
20	<p>1 平仮名「ん」の聞き取りと発音の練習をする。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「しゃ、しゅ、しょの歌」を歌う。</p> <p>③ 「ん」の音を聞き取ったり、発音したりする練習をする。以下の文字カードを教師が読むのを真似して発音する。</p> <div style="text-align: center;"> <table border="0"> <tr> <td>さ</td><td>←→</td><td>さん</td> <td>か</td><td>←→</td><td>かん</td> <td>ほ</td><td>←→</td><td>ほん</td> </tr> <tr> <td>び</td><td>←→</td><td>びん</td> <td>き</td><td>←→</td><td>きん</td> <td>め</td><td>←→</td><td>めん</td> </tr> <tr> <td>はこ</td><td>←→</td><td>はんこ</td> <td>げき</td><td>←→</td><td>げんき</td> <td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>かわ</td><td>←→</td><td>かんわ</td> <td>さか</td><td>←→</td><td>さんか</td> <td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>かば</td><td>←→</td><td>かばん</td> <td>さか</td><td>←→</td><td>さかん</td> <td></td><td></td><td></td> </tr> </table> </div> <p>④ バラバラに置いた文字カードを読む。発音を聞いてカードを取るゲームをする。</p>	さ	←→	さん	か	←→	かん	ほ	←→	ほん	び	←→	びん	き	←→	きん	め	←→	めん	はこ	←→	はんこ	げき	←→	げんき				かわ	←→	かんわ	さか	←→	さんか				かば	←→	かばん	さか	←→	さかん				<p>★「かきくけこ がぎぐげごの歌」(6 参照)</p> <p>★「しゃ、しゅ、しょの歌」(8 参照)</p> <p>★濁音の入った平仮名表(6 参照)</p> <p>★平仮名カード(12 参照)</p>
さ	←→	さん	か	←→	かん	ほ	←→	ほん																																							
び	←→	びん	き	←→	きん	め	←→	めん																																							
はこ	←→	はんこ	げき	←→	げんき																																										
かわ	←→	かんわ	さか	←→	さんか																																										
かば	←→	かばん	さか	←→	さかん																																										
15	<p>2 平仮名「ん」が入っている言葉を書く。</p> <p>① 「ほん」や「かん」など「ん」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。</p> <p>(例)ほん、かん、びん、にほん 等</p> <p>② 「ん」が入っている言葉のイラストを見て、その言葉を言う。</p>	<p>・絵と文字の入った絵カードを用意する。</p>																																													
10	<p>3 音読の練習をする。</p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・音読教材については、42の「音読教材について」を参照する。</p> <p>・教師が読むのに続けて読ませる。</p> <p>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</p>																																													

凡例：・留意点 ★教材

## 「これ、だれの？」を使ったり、答えたりしよう

目標：「これ、だれの？」を使って、聞いたり答えたりできる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。</li> <li>(例) 「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
5	<p>3 「これ、だれの？」の意味を理解して、表現する。</p> <p>① 教師が、自分の筆箱を見せて、「これ、わたしの」と言った後、(こっそり) 児童生徒の筆箱を借りて「これ、だれの？」と聞く。持ち主が「ぼくの／わたしの」と答える。</p> <p>② イラストを見て、「これ、だれの？」を使う練習をする。</p> <p>(例) 「これ、だれの？」 →「ぼくの／わたしの」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「これ」と指し、「だれの？」と尋ね、「ぼくの／わたしの」と答えているイラストを使う。</li> </ul>
10	<p>4 「これ、だれの？」の練習をする。</p> <p>① イラストを示して、「これ」「だれの?」「わたしの」と教師が言うのに続いて、繰り返す。</p> <p>② 2回目は児童生徒だけで言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しには、最初の音「こ……」「だ……」「わ／ぼ……」だけ書く。</li> </ul>
10	<p>5 「あれ」を使う練習をする。</p> <p>① 教師は筆箱を手元と、教室のロッカーの上に置き、「これ、わたしの」と言う。「あれ、だれの？」と聞く。→持ち主の児童生徒が「ぼくの」と答える。</p> <p>② イラストを見て、「あれ」の意味を理解し、使う。</p> <p>③ 児童生徒の近い場所と、遠い場所に文房具を置き「これ?」「あれ?」と指さして名前を聞く。→教師が名前を答える。</p> <p>(例) 「これ?」→「鉛筆」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この段階では「それ」は教えない。</li> </ul>
10	<p>6 「これだれの?」、「あれだれの?」を聞いたり答えたりする。</p> <p>○ イラストを見て、あてはまる言葉を言う。言えたら書く練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★3で使用した別の場面のイラストを使う。</li> </ul>
5	<p>7 インタビュー形式で練習する。</p> <p>○ 教師は児童生徒に鉛筆、消しゴム、物差し等を借りる。→児童生徒は「これ、だれの?」と持ち主を探す。</p>	

凡例：・留意点 ★教材

## 促音を覚えよう

目標：促音「っ」を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 促音「っ」の発音の練習をする。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>③ 教師が促音のある言葉と、ない言葉をペアにして読むのを聞き、まねをして発音する。</p> <p>ねこ ←→ ねっこ    きて ←→ きって          いて ←→ いって    まで ←→ まって          まくら ←→ まっくら    がてん ←→ がってん          はけん ←→ はっけん ・意味のない音だけのものでもよい</p> <p>④ 促音のある言葉だけを読む。拍の違いが分かるよう以下のようなカードで作ったものを読む。</p> <p>折りたたんだ紙「ねこ」→開く「ねっこ」</p> <p>ね こ                      →                      ね   っ   こ</p> <p>⑤ 教師が読むのを聴き、音読する。          ・東京書籍『あたらしいこくご一上』          P.38「ねことねっこ」</p>	<p>★「かきくけこ がぎぐげごの歌」(6 参照)</p> <p>★「しゃ、しゅ、しよの歌」(8 参照)</p> <p>★濁音の入った平仮名表(6 参照)</p> <p>★平仮名カード(12 参照)</p> <p>・促音は拍(リズム上の単位)をとって指導する。</p> <p>● ●          「ね こ」 2音節2拍</p> <p>● ●          「ね っこ」 2音節3拍</p> <p>音が出ない</p> <p>のの違いを手をたたいたり、「っ」で音を止めるよう手を握ったりして指導する。</p>
15	<p>2 促音「っ」が入っている言葉を書く。</p> <p>① 「きって」や「きっぷ」など「っ」が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、まねして読む。</p> <p>② 「っ」が入っている言葉を書く。          (例) きって、きっぷ等</p> <p>③ 「っ」が入っている言葉のイラストを見て、その言葉を言う。</p>	<p>・「いって」(促音)が「いで」(濁音)になってしまう子がいるが、「っ」に一拍分の長さがあることを知らせ、聞き分けられるようにさせる。</p>
10	<p>3 音読の練習をする。</p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・教師が読むのに続けて読ませる。</p> <p>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</p>

凡例：●留意点 ★教材



## 「ここ／どこ／あそこ」を使おう

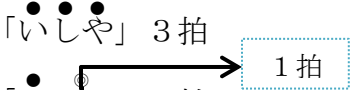
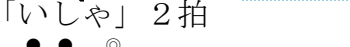
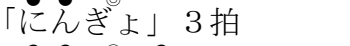

目標：場所を聞いたり、場所を示したりすることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
10	<p>3 「どこ？」を理解し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ イラストを見て同じようにロールプレイをする。 ・「といれどこ？」→「あそこ」 →「どこどこ？」→「ここ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★トイレを探す人と教える人のイラストを見せる。</li> </ul>
20	<p>4 「○○ どこ？」の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① イラストに書いてあるセリフ（「これどこ？」等）を読む。 →教師が「ここ」「あそこ」を答える。</li> <li>② ①と役割を替えて練習する。</li> <li>③ イラストの吹き出しに入る言葉を教師が言うのを聴き、児童生徒は真似を言う。 (例)「これ どこ？」→「あそこ」</li> <li>④ イラストを見て、当てはまる言葉と言う。言えたら吹き出しの中に書く。 (例)「おとうさん どこ？」→「あそこ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時点では「そこ」は出さない。</li> <li>★ボールをしまう場所を尋ねるイラスト</li> <li>・23参照</li> </ul>
10	<p>5 教室をきれいにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教室の中に出ている物を教師に「これどこ？」と聞き、「ここ」「あそこ」の指示に従って決められた場所に置く。 ・言える児童生徒は「はさみどこ？」など、物の名前も一緒に練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に本、はさみ、テープ、のり、紙などを目に付くところに出しておく。</li> <li>・「はさみ、ここ、引出しの中」、「テープ、ここ、机の上」など分かりやすい指示を出す。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 拗音と拗長音を覚えよう

**目標：拗音と拗長音を理解し、使うことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p><b>1 拗音の入った言葉を使う練習する。</b></p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「しゃ、しゅ、しよの歌」を歌う。</p> <p>③ 教師が拗音のある言葉を言うのを聞く。                      (例) 「しゃしん」「かしゅ」等、児童生徒は音を聞き取って平仮名表のどこにあるか指さす。                      ・いくつか練習する。</p> <p>④ 教師が拗音のある音と、ない音をペアにして読むのを聞き、まねをして発音する。</p> <p>いしや ←→ いしや    きやく ←→ きやく                      ひやく ←→ ひやく    ちやか ←→ ちやか</p> <p>・意味のないものでよい。</p> <p>④ 手をたたきながら「いしや」と発音する。                      ・絵カードと文字カードを見ながらいくつか練習する。                      (例) しゃしん、しゅくだい、しよくいんしつ</p> <p>⑤ 拗長音の練習をする。                      ・教師が手をたたきながら「<u>にんぎよ</u>」と言うのを聞き、まねをして発音する。                      ・教師が「<u>にんぎょう</u>」と言うのを聞き、まねをして発音する。                      ・絵カードと文字カードを見ながらいくつか練習する。                      (例) びょういん、きゅうしよく、きょうかしよ</p> <p>⑥ 拗音や拗長音がたくさん出てくる文を音読する。</p>	<p>★「かきくけこ がぎぐげごの歌」(6 参照)</p> <p>★「しゃ、しゅ、しよの歌」(8 参照)</p> <p>★濁音の入った平仮名表(6 参照)</p> <p>★平仮名カード(12 参照)</p> <p>・拗音は一組の平仮名カードにする。い しゃ</p> <p>・拗音は拍(リズム上の単位)をとって指導する。</p> <p>・拍の数に注意させる。</p> <p>「いしや」 3拍   1拍</p> <p>「いしや」 2拍   2拍</p> <p>「にんぎよ」 3拍   3拍</p> <p>「にんぎょう」 4拍   4拍</p> <p>・『あたらしいこくごー上』P.64「いしやといしや」を活用する。</p>
15	<p><b>2 拗音が入っている言葉を書く。</b></p> <p>拗音が入っている言葉を読む教師の声を聞いて、平仮名を書く。</p>	
10	<p><b>3 音読の練習をする。</b></p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・教師が読むのに続けて読ませる。</p> <p>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 「みぎ／ひだり／まんなか」と体の部位の名前を使おう

目標：「右／左／まん中」と体の部位の名称を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
20	<p>3 「みぎ／ひだり／まんなか」を理解するゲームを行う。</p> <p>① 教師が児童生徒に背を向けて、「左」と「右」を言いながら指す方向を見て、「左」「右」と言う練習を繰り返す。</p> <p>② 教師が、二つの紙コップの一方にサイコロを入れて素早く動かし、どちらに入っているか、「右」「左」と言って当てるゲームを行う。</p> <p>③ 紙コップを三つにして同じようにゲームを行うことで、「まんなか」を理解する。</p>	<p>★紙コップ (3)</p> <p>★サイコロ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒がコップを動かし、「左」「右」「真ん中」と聞いてもよい。</li> </ul>
15	<p>4 体の部位の名称を理解する。</p> <p>① イラストを使って、目、耳、口、鼻、手、足を理解する。</p> <p>② いろいろな体の部位の名称を入れて、「頭、肩、ひざ、ぽん」の歌を歌う。</p> <p>③ 教師が「目」と言ったら「目」を触る。</p> <p>④ 教師が「右目」と言ったら「右目」を触る。</p>	<p>★体の部位の名称が入ったイラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体の部位を教師が指し示したり、児童生徒に示させたりしながら理解させるとよい。</li> <li>・対面で指導する際は、左右で混乱しないよう配慮する。</li> </ul>
5	<p>5 P.61 イラストを見て、「右目」「左耳」のように言う。正解したら平仮名で書く練習をする。</p> <p>(例)左手、右足、右耳、左目、右手、左足</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3の活動と同様に、左右で混乱しないよう配慮する。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 長音「う」を覚えよう

**目標：長音と関連する言葉を理解し、使うことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																
20	<p><b>1 「あ段」と「う段」の長音の入った言葉を練習する。</b></p> <p>① 教師が「おかあさん」と言うのを聞いて手をたたきながら真似をして発音する。（「か」で手をたたき、「あ」まで伸ばす）</p> <p>② 「おばさん」と「おばあさん」、「ふくろ」と「ふくろう」を、手をたたきながら発音する。</p> <p>③ 「おばさん」と「おばあさん」、「ふくろ」と「ふくろう」をそれぞれ文字カードを並べる。                      (例) <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ば</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さ</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ん</td></tr> <tr><td colspan="4"> </td></tr> <tr><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ば</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あ</td><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さ</td></tr> <tr><td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ん</td><td colspan="3"> </td></tr> </table> </p> <p>④ 教師が言った言葉を聞いて文字カードを並べる。                      (例) おとうさん、おばあさん、おかあさん                      おばさん、ふせん、ふうせん、そうじ</p> <p>⑤ 文字カードを読む。</p>	お	ば	さ	ん					お	ば	あ	さ	ん				<p>★「かきくけこ、がぎぐげごの歌」の歌詞</p> <p>★「しゃ、しゅ、しょの歌」の歌詞</p> <p>★濁音の入った平仮名表</p> <p>★文字カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音は一息で2倍の長さ(2拍)で発音するよう指導する。</li> <li>・か／き／く／け／こ 1音節が1拍。 かあ／きい／くう／けえ／こう / 1音節が2拍。</li> <li>・長音が二つの音に切れないように注意する。 (例) 「ふくろ・う」</li> <li>・長音の文字カードを作っておく。</li> </ul>
お	ば	さ	ん															
お	ば	あ	さ															
ん																		
15	<p><b>2 拗音が入っている言葉を書く。</b></p> <p>① イラストの名前を、教師のあとについて発音する。                      (例) ぞう、ぞうきん、そうじ、てつぼう                      もうふ、すうがく・さんすう、                      ふうせん、すうじ、くうこう</p> <p>② 平仮名を書く。</p>	<p>★イラストを描く紙</p>																
10	<p><b>3 物語などの教材を音読する。</b></p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで読む。</p> <p>③ 一人ずつ読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が読むのに続けて読ませる。</li> <li>・児童生徒の実態にあわせ、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</li> </ul>																
<p>★ 音読教材について</p> <p>1回で読み切れるもの、理解しやすいものを選ぶ。一週間を通して同じ本を読む。昔話、伝記など、いろいろなお話から選ぶとよい。</p>																		

凡例：・留意点 ★教材

## 「うえ／した」を使おう

目標：上、下、まん中を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>
15	<p>3 「上／下」の意味を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 左右の復習をする。</li> <li>② 教師が上を指して「うえ」と言うのを聞き、繰り返す。</li> <li>③ 教師が下を指して「した」と言うのを聞き、繰り返す。</li> <li>④ イラストに「うえ」、「した」「ひだり」「みぎ」を書く。 (例)指さすイラスト、エレベータのイラスト</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・51参照</li> </ul>
15	<p>4 「上／下／まん中」の使い方を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ トランプ当てゲームをする。</li> <li>・トランプを3枚用意し、当てる数字を決める。</li> <li>・教師はトランプをきって、(当てる数字は)「うえ、した、まんなか？」と聞く。</li> <li>・「うえ／した／まんなか」から1枚を選ぶ。</li> </ul>	<p>★トランプ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何回か練習させたり、トランプを使って児童生徒に聞き役を務めさせたりしてもよい。</li> </ul>
10	<p>5 「これ、した？／うえ？」と尋ねる練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① イラストを見て、児童生徒が「これ、した？」と聞き、教師が答える。 (例)ボールをしまう場所を尋ねるイラスト 「これ した(?)」→「うえ」</li> <li>② 聞く役と答える役を替えて練習する。</li> <li>③ イラストの四角に入る言葉を書く。 (例)靴箱に靴をしまう場所を尋ねるイラスト 「これ うえ(?)」→「まん中」</li> </ol>	<p>★入れる場所を尋ねるイラスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他には冷蔵庫にトマトをしまう場所、戸棚に実験道具の試験管をしまう場所を尋ねるイラスト等もよい。</li> <li>・2段ベッドを前に「<u>ぼく</u> うえ？」→「した」のような例もよい。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 長音「い」を覚えよう

目標：長音と関連する言葉を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p>1 「い段」と「え段」の長音の入った言葉を練習する。</p> <p>① 教師が「おじいさん」と言うのを聞いて手をたたきながらまねをして発音する。（「じ」で手をたたき、「い」まで伸ばす。）</p> <p>② 「おにいさん」と「おねえさん」、「せんせい」と「とけい」を、手をたたきながら発音する。</p> <p>③ 「おじさん」と「おじいさん」、「ふくろ」と「ふくろう」をそれぞれ文字カードで並べる。</p> <p>お じ さ ん</p> <p>お じ い さ ん</p> <p>④ 教師が言った言葉を聞いて文字カードを並べる。</p> <p>(例) おに<sup>い</sup>さん、せん<sup>い</sup>せい、れ<sup>い</sup>ぞうこ、と<sup>い</sup>けい、え<sup>い</sup>が、き<sup>い</sup>ろ、ち<sup>い</sup>さい</p> <p>⑤ 並べた文字カードを読む。</p>	<p>★濁音の入った平仮名表</p> <p>★文字カード</p> <p>★絵カード（長音）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の教科書（1年生）で、長音について学習する教材を参考にする。</li> <li>・長音が二つの音に切れないように注意する。（例）「ふくろ・う」</li> </ul> <p>・長音の文字カードを作っておく。</p> <p>・自分の家族を書く活動もよい。</p>
15	<p>2 長音が入っている言葉を書く。</p> <p>① 絵カードの名前を、教師のあとについて繰り返し発音する。</p> <p>(例) とけい、せんせい、けいかん、へいめいし、れいてん、れいぞうこ</p> <p>② 平仮名を書く。</p>	<p>★絵カード（長音）</p> <p>★イラストを描く紙</p>
10	<p>3 物語などの教材を音読する。</p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで読む。</p> <p>③ 一人ずつ読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が読むのに続けて読ませる。</li> <li>・児童生徒の実態に合わせて、ページや役割を決めるなど読む量を工夫する。</li> </ul>
<p>★ 音読教材について</p> <p>1回で読み切れるもの、理解しやすいものを選ぶ。一週間を通して同じ本を読む。昔話、伝記など、いろいろなお話から選ぶとよい。</p>		

凡例：・留意点 ★教材

## 「いたい」を使おう

目標：「いたい」を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<p>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</p>
5	<p>3 「いたい」の意味を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教師がイラストを示して「いたい」と言うのを聞く。</li> <li>② 教師のあとに続いて、繰り返す。</li> </ol>	★イラスト（痛い場面）
10	<p>4 「いたい」を練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① イラストを見て「いたい」と言う。</li> <li>② 四角の中に「いたい」と書く。</li> <li>③ イラストを見ながら「いたい」を読む。</li> </ol>	・(例)石が飛んできて当たるイラスト
15	<p>5 「〇〇がいたい」の練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 体の名称の復習をする。あたま、かた、ひざぼんの歌を歌う。おなか、せなか、くび、のどを替え歌として入れる。</li> <li>② イラストを見て、「いたい、あたま、いたい、あたまがいたい」と言う教師のあとに続いて、繰り返す。</li> <li>③ イラストを使って、「おなかがいたい」「はがいたい」等を練習する。</li> <li>④ 四角の中に合う言葉を書く。</li> <li>⑤ イラストを見ながら、四角の中の言葉を読む。</li> <li>⑥ イラストを見て、教師の「どこがいたい」との質問に対し、「～がいたい」と答え、その言葉を書く。</li> </ol>	<p>・(例)頭を痛がるイラスト</p> <p>・(例)イラスト（おなか、せなか、くび、のど等）</p>
10	<p>6 「気持ちが悪い」「熱がある」の練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 体調の悪いイラストを見て「きもちがわるい」と言う練習をする。 ・教師は体温計を見せて「ねつ、ねつ」と伝える。</li> <li>② イラストを見て、「ねつがある」「ない」の練習をする。</li> </ol>	<p>★体温計</p> <p>・病気のとときの表現はイラストの多い旅行用の会話帳や翻訳アプリを利用するのもよい。</p>

凡例：○留意点 ★教材

## 平仮名と似ている片仮名を覚えよう

目標：平仮名と似ている片仮名について理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
30	<p>1 平仮名と片仮名を比べて、相違点を理解する。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 平仮名表と片仮名表を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の真似をして、片仮名表を読む。</li> <li>・並び方も音も平仮名と同じ。</li> <li>・濁音、促音、拗音も同じ。</li> </ul> <p>③ 平仮名表と片仮名表を比べて良く似た文字を探す。</p> <p>(例)「う」と「ウ」、「か」と「カ」等</p> <p>④ 左から右、上から下の書き順の基本を確認するためにいくつかノートに書く。</p> <p>(例)「リ」「カ」「モ」等</p> <p>⑤ 片仮名を使う言葉について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の教科書を読んで、どんな言葉を片仮名で書くか確認する。</li> </ul> <p>「外国から来た言葉」「擬音語、擬態語」</p> <p>⑥ 伸ばす音(長音)は「ー」を書き、いくつか例を読む。</p> <p>(例)アイスクリーム、ペルー、スプーン</p>	<p>★平仮名表</p> <p>★片仮名表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名と似ていて簡単だと感じさせる。</li> <li>・平仮名より使用頻度が低く忘れやすいため、片仮名の習熟にこだわらず、適当なところで漢字指導を始めた方がよい。</li> <li>・国語の教科書で、片仮名で書く言葉について学習する教材を参考にする。</li> </ul>
10	<p>2 片仮名を読む練習をする。</p> <p>① 言葉が紹介してある本の中から、おかしなど分野を決めて片仮名の名前のものを読む。</p> <p>② 国際クラスの友達の名前を読む。</p>	<p>★言葉を絵とともに掲載している辞典等を使用させるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーキ、チョコレート等、絵から名前が想像できるものを選ぶとよい。</li> </ul> <p>★名簿</p>
5	<p>3 平仮名と似ている片仮名を書く。</p> <p>(例)リ、へ、モ、カ、キ、ヤ、セ、ナ、ニ、ウ、ラ、コ、シ、ツ、ー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母語が書ける児童生徒には片仮名の語彙表を作って渡してもよい。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材



## 電話を使おう

**目標：電話で学校に連絡ができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 挨拶をする。</b> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <b>2 絵本の朗読を聞く。</b> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。	・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
10	<b>3 電話、電話番号について理解する。</b> ① イラストを使い、「でんわ」「でんわばんごう」という言葉を覚える。教師が言う言葉を繰り返す。 ② 自分の好きな数字で携帯電話の番号を書く。 ③ 電話番号を読む。 (例) 090〇〇〇〇1234 等	<b>★イラスト（電話と電話番号）</b> ・携帯、携帯電話という言葉も教える。
5	<b>4 電話番号を聞き取って書く。</b> ○ 学校の電話番号を聞き取って書く。 (例) 45- <sup>の</sup> 〇〇〇〇	・家庭からは、携帯電話からかけることも多いので、市外局番から扱ってもよい。
25	<b>5 学校に欠席の連絡をする練習をする。</b> ① 教師はジェスチャーで「朝、おなかがいたい、学校行けない、どうする?」と聞く。 (回答例)「学校 でんわ、でんわ」 ② 名前と「～せんせいおねがいします」を記入し、2～3回読む練習をする。 ③ 紙の筒を電話に見立て、「もしもし～ですか」「もしもし～です」という練習をする。 ④ 「～がいたい」を記入する。2～3回読む練習をする。 ⑤ (電話例)を記入する。 ⑥ 紙の筒を電話に見立てて、学校を休む電話連絡の練習をする。 (例)「ぼく／わたし、おやすみします」	<b>★紙の筒</b> (電話例) ① もしもし。 (ぼく／わたし) □ねん□くみの <input type="text"/> <input type="text"/> せんせい <input type="text"/> します。 ② もしもし。 (ぼく／わたし) <input type="text"/> おなかが <input type="text"/> (ぼく／わたし) <input type="text"/>

凡例：・留意点 ★教材

## 身近なものと片仮名を覚えよう 1

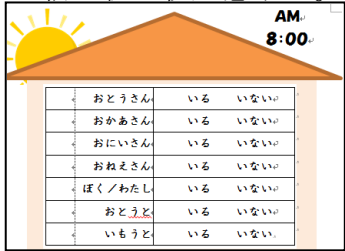
目標：片仮名で書く身近なものの名前を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	<p>★ことば絵じてん</p>
15	<p>2 片仮名の書き順を理解する。</p> <p>① 前回の復習として、上から下、左から右の書き順の基本を確認する。 (例)「ウ」「キ」「ケ」「ホ」「ミ」等</p> <p>② ソ、ン、シ、ツの区別を学ぶ。 ・(ソ 左から右) (ン 上から下) ・(シ 上から下) (ツ 左から右) ・片仮名を書いた上に平仮名をなぞり、左から右(ソそ、ツつ) 上から下(ンん、シし)を確認する。</p> <p>③ 片仮名を読む練習をする。 『ことば絵じてん』の服の中から片仮名の名前のものを読む。 (例)セーター、スカート、ズボン、ブラウス、リボン、マフラー</p>	<p>・56 「平仮名と似ている片仮名を覚えよう」の復習をさせる。</p> <p>・漢字の書き順につながるので丁寧に指導する。</p> <p>・そ ソ ン ン</p> <p>・背中に指で片仮名を書いて、何の字か当て合うようにさせる。</p> <p>・絵カードと文字カードを用意して、名前を言ったり覚えたりする練習をさせる。</p>
15	<p>3 片仮名を書く練習をする。</p> <p>○ 平仮名を片仮名に書く練習をする。 ・タイムトライアルにしてもよい。 (例)テレビ、コード、カタカナ、ビデオ</p>	<p>・国語の教科書(1年生)で、片仮名を書く学習をする教材を参考にする。</p> <p>・練習する文字 (ン、オ、テ、プ、レ、ヒ、ド)</p> <p>・宿題も可。</p>
10	<p>4 音読の練習をする。</p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・児童生徒が読みやすい本を選ぶ。</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 「いる／いない」を使おう

**目標：人や動物が「いる／いない」を表現できる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																								
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。</li> </ul>																								
10	<p>3 「いる／いない」の意味を理解する。</p> <p>① 教師は「いえ、おかあさん、いる？いない？」と聞く。児童生徒は「いる」「いない」を答える。</p> <p>② イラストを読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の児童生徒には家のイラストやお母さんのペープサートを使って「いえ、いる、いない」と聞く。</li> </ul>																								
15	<p>4 「いる／いない」の練習をする。</p> <p>① イラストを見て、「いる／いない」を言う。</p> <p>② 四角の中に「いる／いない」を書く。</p> <p>③ イラストを見て、「いる／いない」を言う。</p> <p>④ 言えたら四角の中に「いる／いない」を書く。</p> <p>⑤ 書いた「いる／いない」を読む。</p>	<p>★イラスト（電話をかける、鶏が巣にいる場面等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いる／いない」を確かめているイラストの吹き出しに、「いる／いない」を入れさせる。</li> </ul>																								
15	<p>5 「いる／いない」を使って質問する。</p> <p>① 家族の呼び方を復習する。</p> <p>② 教師の質問に答える。 (例)「お兄さんいる？」「妹いる？」等を聞き、「いる／いない」を答える。</p> <p>③ 教師や他の児童生徒に質問する。 (例)「お兄さんいる？」「妹いる？」等を聞き、教師や他の児童生徒が「いる／いない」を答える。</p> <p>④ タスクシートに、記入して発表する。 (例)「あさ、おとうさん いる／いない」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の呼び方については<b>23</b>を参照する。</li> <li>・児童生徒の家庭環境等に配慮する。</li> <li>・タスクシート例 朝と夜2枚用意する。</li> </ul>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: right;">AM 8:00</td> </tr> <tr> <td>おとうさん</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>おかあさん</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>おにいさん</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>おねえさん</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>ぼく／わたし</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>おとうと</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> <tr> <td>いもうと</td> <td>いる</td> <td>いない</td> </tr> </table>	AM 8:00			おとうさん	いる	いない	おかあさん	いる	いない	おにいさん	いる	いない	おねえさん	いる	いない	ぼく／わたし	いる	いない	おとうと	いる	いない	いもうと	いる	いない
AM 8:00																										
おとうさん	いる	いない																								
おかあさん	いる	いない																								
おにいさん	いる	いない																								
おねえさん	いる	いない																								
ぼく／わたし	いる	いない																								
おとうと	いる	いない																								
いもうと	いる	いない																								

凡例：・留意点 ★教材

## 身近なものと片仮名を覚えよう2

目標：片仮名で書く身近なものの名前を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「あいうえおの歌」を歌う。</p> <p>② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「きやきゆきよの歌」を歌う。</p>	<p>★ことば絵じてん</p> <p>★カタカナカード</p> <p>★世界地図</p>
15	<p>2 片仮名で書く身近なものの名前を覚える。</p> <p>① フラッシュカードのように、カタカナカード（一文字）を見て、素早く読む練習をする。</p> <p>② 地図を見て、自分の出身国や友達の国を探して国名を読む。 (例)ブラジル フィリピン、ネパール 等</p> <p>③ 母語と日本語で国の名前の言い方を比べ、日本語の言い方を覚える。 (例)ポルトガル語 Brasil (ブラジル) Estados Unidos (アメリカ合衆国) França (フランス) Alemanha (ドイツ)</p>	<p>・低学年ではポケモンなど好きなキャラクターの名前を読んだり、書いたりする活動も考えられる。</p> <p>・他にもアメリカ、フランス、ドイツなど国の名前を読ませる。</p>
15	<p>3 片仮名を書く練習をする。</p> <p>① 身近な片仮名を書く。 (例)パンツ、スカート、ホース、ルーレット</p> <p>② カタカナタイムトライアルに取り組む。 ・平仮名と片仮名を線で結ぶ。</p> <p>③ 片仮名のまとめを書く。 (例)パン、バター、バス、ボールペン</p>	<p>★ストップウォッチ</p> <p>・練習する文字（パ、ス、ホ、ル、タ）</p> <p>・10字ずつの片仮名と平仮名を線で結ぶ4問で時間を計測する。</p>
10	<p>4 音読の練習をする。</p> <p>① 教師の音読を聞く。</p> <p>② 一文ずつ、教師に続いて繰り返す。</p> <p>③ 児童生徒だけで音読する。</p>	<p>・児童生徒が読みやすい本を選ぶ。</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 「わすれた・かして・ありがとう」を使おう

目標：忘れた、貸して、ありがとうを理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<p>指導上の留意点・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等を選ぶ。</li> </ul>
10	<p>3 「忘れた」「貸して」の意味を理解し、表現する。</p> <p>① 教師は、何か記録を付けるジェスチャーをして「えんぴつ、えんぴつがない」「わすれた」「〇さん、えんぴつかして」と言う。鉛筆を借りる。</p> <p>② イラスト場面の台詞を読む。</p> <p>③ 「えんぴつ、かして」という言い方を練習する。 →言われた児童生徒は鉛筆を貸す。他の物でも練習する。</p>	<p>★イラスト（鉛筆を借りる場面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・返すとき、もう一度「ありがとう」と言うことも練習の中で伝えたい。</li> </ul>
10	<p>4 「～貸して」を使う練習をする。</p> <p>① 教室にあるいろいろな文房具の名前を言う。</p> <p>② イラストを見て、「～かして」と言う。言えたら書く。</p>	<p>★イラスト（〇〇を借りる場面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金は借りないことも伝えたい。</li> </ul>
10	<p>5 「忘れた」を使う練習をする。</p> <p>① イラストを見て「わすれた」を言う練習をする。</p> <p>② イラストを見て「ありがとう」の練習をする。</p> <p>③ 「わすれた」、「ありがとう」を書く練習をする。</p>	<p>★イラスト（忘れた場面、お礼を言う場面）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わすれもの」という言葉も教える。</li> </ul>
10	<p>6 「〇〇忘れた、貸して、ありがとう」を使う練習をする。</p> <p>① イラストを見て、何を忘れたか話をする。</p> <p>② 四角の中に合う言葉を入れる。 (例) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">けしごむわすれた</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">かして</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ありがとう</span></p> <p>③ 書いたものを読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3コマで「忘れた」「貸して」「ありがとう」の三つの場面を基本的に表している。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 身近なものと片仮名を覚えよう3

**目標：片仮名で書く身近なものの名前を理解し、書くことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</b> ① 「あいうえおの歌」を歌う。 ② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。 ③ 「きゃきゅきょの歌」を歌う。	★ことは絵じてん
15	<b>2 片仮名で書く身近なものの名前を理解して、表現する。</b> ① カタカナカード（一文字）をフラッシュカードとしてどんどん読む。 ② 「給食の献立表」の中から、片仮名の名前のものを読む。 （例）カレー、シューマイ、アジフライ 等 ③ 好きな給食、嫌いな給食について話をする。 ④ 自分の国の給食（昼ごはん）を絵に描いて、「これは～です」と説明する。	★カタカナカード  ★献立表（給食の写真）  ・日本生まれの児童生徒は家での昼ごはん（晩ごはん）を絵に描いて説明する。
15	<b>3 片仮名を書く練習をする。</b> ① 平仮名のものの名前を片仮名にして書く。 （例）オートバイ、ドア、クーラー クッキー、ガム、ケーキ 等 ② ヒントで片仮名を五十音順に書く。	・片仮名を表す身近な物を書かせてもよい。 ・練習する文字（イ、ア、ク、ム、ケ、エ） ・形から想像できるようなヒントとなっている。 （アソシエーション・メソッド）
10	<b>4 音読の練習をする。</b> ① 教師が読むのを聞く。 ② みんなで言う。 ・教師が読むのに続けて、繰り返す。 ③ 一人ずつ言う。	★音読資料 ・ <b>42</b> 参考

凡例：・留意点 ★教材

## 「たべる・のむ」を使おう

目標：「食べる・飲む」を使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」</li> </ul> <p>2 絵本の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師による絵本の読み聞かせを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等を選ぶ。</li> </ul>
10	<p>3 「食べる／食べない」の意味を理解し、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師がクッキーの絵カードを見せて、「食べる？食べない？」と聞く。→「食べる」と答える。</li> <li>② 教師が刺身の絵カードを見せて「食べる？食べない？」と聞く。→児童生徒が答える。</li> <li>③ 黒板に書いた「たべる」○「たべない」×を読む。</li> <li>④ イラストを見て、「食べる／食べない」のやり取りの練習をする。</li> </ul>	<p>★食べ物の絵カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べないジェスチャーをする児童生徒がいたら「たべない」を教える。</li> </ul> <p>★イラスト(食べるか尋ねている場面)</p>
5	<p>4 「食べる／食べない」を使う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 食べ物の絵カードを見て「たべる／たべない」を言う。</li> <li>② 「たべる／たべない」を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べる、食べないは児童生徒によって違うので、それぞれの意見を尊重する。</li> </ul>
5	<p>5 「飲む／飲まない」を使う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教師はジュースの絵カードを見せて「飲む？飲まない？」と聞く。→児童生徒が答える。</li> <li>② コーヒーも同様に聞いて、答える。</li> <li>③ イラストを見て「のむ／のまない」を書く。</li> </ul>	<p>★飲み物の絵カード</p>
10	<p>6 「飲む／飲まない」を使う練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 飲み物の絵カードを見て、「のむ／のまない」を言う。</li> <li>② 「のむ／のまない」を書く。</li> </ul>	
10	<p>7 「食べる／食べない」、「飲む／飲まない」を使った会話の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 絵カードを見て、教師の「食べる／食べない」、「飲む／飲まない」の質問に答える。</li> <li>② 児童生徒が聞く役をする。</li> <li>③ 四角の中に合う言葉を書く。</li> </ul>	

凡例：・留意点 ★教材

## 身近なものと片仮名を覚えよう4

目標：片仮名で書く身近なものの名前を理解し、書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「あいうえお」の歌を歌う。</p> <p>② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「きゃきゅきょの歌」を歌う。</p>	
20	<p>2 片仮名で書く身近なものの名前を理解し、表現する。</p> <p>① カタカナカード（一文字）をフラッシュカードとして読む。</p> <p>② 絵カードを見て、スポーツの名前を答える。 バスケットボール、テニス、サッカー、ドッジボール、ピンポン、バレーボール</p> <p>③ 上記のスポーツの文字カードを読む。</p> <p>④ 絵カードと文字カードを合わせたり、ひっくり返してビンゴをしたりして、名前を覚える。</p>	<p>★カタカナカード</p> <p>★絵カード、文字カード</p>
10	<p>3 片仮名を書く練習をする。</p> <p>① 身近なものを表す片仮名を書く。 (例) サッカー、ソフトクリーム、シーソー、チーズ、チャイム、カップヌードル</p> <p>② カタカナタイムトライアルに取り組む。 ・平仮名と片仮名を線で結ぶ。</p> <p>③ 片仮名のまとめを書く。 (例) ボタン、ガラス、フライドポテト 等</p>	<p>★ストップウォッチ</p> <p>・練習する文字 サ、ソ、ン、チ、ヌ</p> <p>・10字ずつの片仮名と平仮名を線で結ぶ4問で時間を計測する。</p> <p>・まとめは宿題にするのもよい。</p>
10	<p>4 音読の練習をする。</p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで言う。 ・教師が読むのに続けて、繰り返す。</p> <p>③ 一人ずつ言う。</p>	<p>★音読資料</p> <p>・42 参考</p>

凡例：・留意点 ★教材



## 「おおきい／ちいさい」を使おう

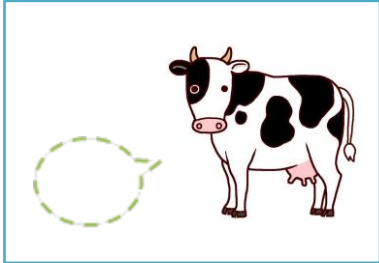
目標：「大きい／小さい」を使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 挨拶をする。</b> ・合図に合わせて始めの挨拶をする。 (例)「立ってください」 「今から日本語の勉強を始めます」 <b>2 絵本の朗読を聞く。</b> ・教師による絵本の読み聞かせを聞く。	・読み聞かせの本は、学習した表現を中心に、繰り返しや擬態語が使われるなど、児童生徒が興味を持つものを図書館等で選ぶ。
15	<b>3 「大きい／小さい」の言葉の意味を理解し、表現する。</b> ① サイズの大きい服や靴を用意した教師が、児童生徒に合わせて「おおきい」と言うのを聞く。 ② サイズの小さい服や靴を用意した教師が、児童生徒に合わせて「ちいさい」と言うのを聞く。 ③ 服や靴を見て、「おおきい」「ちいさい」と言う練習をする。 ④ イラストの吹き出しを読む。四角に「おおきい／ちいさい」を書く。	★服 ★くつ ★イラスト (大きすぎる、小さすぎる場面)
10	<b>4 「大きい／小さい」を使う練習をする。</b> ① イラストを見て教師が「おおきい？／ちいさい？」と聞く。→児童生徒が「おおきい／ちいさい」と答える。 ② 全部言えたら、「おおきい／ちいさい」を書く。	★イラスト (大きすぎる、小さすぎる場面)
15	<b>5 促音、拗音の学習で「大きい／小さい」を使う。</b> ① イラストの言葉を読む。何回か練習する。 (例)がっこう、せっけん、きって、もっきん ② イラストの言葉を書く。 ③ 書いた字を見て「っ」ちいさい「よ」ちいさいと言う。 ④ 教師はイラストを指して「なに」と聞く。 →児童生徒は名前を言う。 (例) (①の続き) きょうしつ、としょしつ しょくいんしつ、しゃしん、ぎゅうにゅう	★絵カード (促音、拗音)

凡例：・留意点 ★教材

## 身近なものと片仮名を覚えよう5

**目標：身近なものを片仮名で書くことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p><b>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</b></p> <p>① 「あいうえお」の歌を歌う。                      ② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。                      ③ 「きゃきゅきょの歌」を歌う。</p>	<p>★平仮名表</p>
20	<p><b>2 片仮名で書く身近なものの名前を理解し、表現する。</b></p> <p>① カタカナカード（一文字）をフラッシュカードとして読む。                      ② 動物の鳴き声を片仮名で書く。                      ・動物の名前を確認する。                      ・教師が動物の絵の絵カードを見せて、鳴き声を言うのを聴き、鳴き声を片仮名で書く。                      (例) 牛、鶏、豚、ヤギ、象、ネズミ、猫、アヒル                      ③ 母国語では何と言うか発表する。                      ・国ごとの違いを楽しむ。</p>	<p>★カタカナカード                      ★絵カード                      ・牛、鶏、豚、ヤギ、象、ネズミ、猫、アヒル                      絵カード例</p> 
10	<p><b>3 片仮名を書く練習をする。</b></p> <p>① 身近な物を片仮名で書く。                      (例)ネクタイ、ノート、ママ、ミルク 等                      ② 拗音、長音、促音の入った身近な物を、片仮名で書く。                      (例)シャツ、シュート、ジュース、ヨット                      ③ ワやロの入った身近な物を片仮名で書く。                      (例)シャワー、ロケット、コケコッコ</p>	<p>・練習する文字                      ネ、ノ、マ、ミ、メ                      ・練習する文字                      シャ、ユ、シュ、                      ジュ、ニュ、ヨ、                      ショ、チョ                      ・練習する文字                      ワ、ロ</p>
10	<p><b>4 音読の練習をする。</b></p> <p>① 教師が読むのを聞く。                      ② みんなで言う。                      ・教師が読むのに続けて、繰り返す。                      ③ 一人ずつ言う。</p>	<p>★音読資料                      ・<b>42</b> 参考</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 覚えた言葉を使おう

目標：買い物遊びに使える言葉を理解し、使うことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「あたま、かた、ひざぼんの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
15	<p>2 語彙調査をする。</p> <p>○ 愛知県プレスクール実施マニュアルにある100語の語彙調査をする。</p> <p><a href="http://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/16364.pdf">http://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/16364.pdf</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の語彙量の確認をする。</li> <li>・人数が多いと時間がかかるので別の時間に行うなど工夫が必要である。</li> </ul>
25	<p>3 買い物遊びをする。</p> <p>① 野菜、果物、お菓子、文房具、学校で使うものなどの絵カードを見て名前を言う。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト、キャベツ、ニンジン、ジャガイモ。</li> <li>・みかん、りんご、いちご、なし、ぶどう。</li> <li>・チョコレート、ガム、あめ、ケーキ、ドーナツ。</li> <li>・えんぴつ、けしゴム、シャープペン、じょうぎ、かばん。</li> <li>・たいそうふく、うわばき、ぼうし、すいとう、かさ、うんどうぐつ 等。</li> </ul> <p>② 好きなグループを選んで絵カードを作る。</p> <p>③ 絵カードに描いた物に値段を付ける。</p> <p>④ お店の名前を決めて、お店屋さんを開く。</p> <p>⑤ 買い物遊びをする。</p>	<p>★絵カード</p> <p>★おもちゃのお金</p> <p>★計算機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーマーケット等のちらしを使ってもよい。</li> <li>・「ください」「いくら」「どうぞ」「ありがとう」という表現を教える。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## ヒントを使って片仮名を書こう

目標：ヒントを頼りにして、片仮名で書くことができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材										
5	<p>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「あいうえお」の歌を歌う。</p> <p>② 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>③ 「きゃきゅきょの歌」を歌う。</p>	★平仮名表										
20	<p>2 片仮名の文字を覚える。</p> <p>① 片仮名を覚えるゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名カードとカタカナカードを対応させて並べる。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>あ</td><td>い</td><td>う</td><td>え</td><td>お</td> </tr> <tr> <td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>オ</td> </tr> </table> <p>順番に□まで並べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒がまだしっかり覚えていない片仮名の字を選ぶ。</li> <li>選んだ片仮名を机の上に並べる。</li> <li>教師が平仮名を読み、児童生徒はカタカナカードを取る。</li> </ul>	あ	い	う	え	お	ア	イ	ウ	エ	オ	★カタカナカード ★平仮名カード  ・児童生徒の実態に応じて、分量を調整する。 ・お手付きは一回休むなど、児童生徒とルールを決める。
あ	い	う	え	お								
ア	イ	ウ	エ	オ								
10	<p>3 片仮名を書く練習をする。</p> <p>○ ヒントで片仮名を五十音順に書く。</p>	・形から想像できるようなヒントとなっている。 (アソシエーションメソッド)										
10	<p>4 音読の練習をする。</p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が読むのに続けて、繰り返す。</li> </ul> <p>③ 一人ずつ言う。</p>	★音読資料 ・42 参考										

凡例：・留意点 ★教材

## 名前と出身地を伝えよう

目標：「の」を使って、くわしく自己紹介をすることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 仮名の歌を歌い、日本語に慣れる。</b> ① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。 ② 「きゃきよきよの歌」を歌う。	★平仮名表
10	<b>2 自分の名前を仮名で書く練習をする。</b> ① 横書きで名前を書く。 ② 縦書きで名前を書く。	・片仮名表記の児童生徒は片仮名で練習する。 ・書き順に気を付ける。
5	<b>3 自己紹介の復習をする。</b> ○ 3日目 <b>5</b> で、丸覚えした自己紹介を復習する。 ・「はじめまして。わたし／ぼくのなまえは〇〇です。〇〇からきました。よろしくおねがいします」	★作成した自己紹介シート ( <b>5</b> 参照) ★世界地図 ★日本地図
15	<b>4 「〇〇の〇〇からきました」の練習をする。</b> ① 地図で出身の国を探す。 ② 出身の町を探す。 ③ 地図を見ながら「〇〇の〇〇」の練習をする。 (例)ブラジルのサンパウロ フィリピンのマニラ ④ 「〇〇の〇〇からきました」を何回か言う。	・日本の東京等、児童生徒が知っている地名を出して練習させる。
10	<b>5 今住んでいる場所を言う練習をする。</b> ① 今住んでいる場所を地図で探す。 ② 愛知県の場所を確認して印を付ける。 ③ 市を探して印を付ける。 ・「あいちけんの〇〇し」を言う練習をする。 (例)愛知県の安城市	・Web環境があればグーグルアース等で出身の町を探してもよい。 ・白地図を塗ってもよい。 ・高学年の児童生徒は住所が言えるようになるとよい。

凡例：・留意点 ★教材

## 自己紹介をしよう 1

目標：自分の好きなものや、好きなことを紹介することができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	1 音読練習をする。	・既習のものがよい。
15	2 好きな食べ物について話す。 ① 食べ物絵カードを見て名前を言う (例)ごはん、パン、トマト、りんご、 みそしる、カレーライス ② 絵カードと文字カードを合わせたり、ビンゴゲームをしたりする。 ③ 「すきです」「すきではありません」に分ける。 ④ 好きかどうかを言う練習をする。 ・ぼく／わたしは～がすきです。 ・ぼく／わたしは～がすきではありません。	★絵カード(食べ物) ★文字カード ★ビンゴカード(2回分) ・名前や文字を覚える活動として行わせる。 ・話し言葉としては、 「すき <u>では</u> ありません」 「すき <u>じゃ</u> ありません」とどちらも使うが、指導する際にはどちらを使うか統一しておく。
15	3 好きなスポーツについて話す。 ① スポーツ絵カードを見て名前を言う。 (例)バスケットボール、サッカー、すいえい、やきゅう、ドッジボール、なわとび ② 絵カードと文字カードを合わせたり、ビンゴゲームをしたりする。 ③ 好きです 好きではありませんに分ける。 ④ 好きかどうかを言う練習をする。 ・ぼく／わたしは～がすきです。 ・ぼく／わたしは～がすきではありません。	★絵カード(スポーツ)
10	4 発表する。 ① 好きなこと、好きではないことについて話す。 ② 自己紹介に好きな食べ物、好きなスポーツを加えて発表する。	・69参照

凡例：・留意点 ★教材

## 好き嫌いを伝えよう

目標：好きなものを尋ねたり、答えたりできる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<p>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</p> <p>① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。</p> <p>② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。</p>	★平仮名表
20	<p>2 「すきです」「すきではありません」の応答練習をする。</p> <p>① 食べ物の絵カードを見て「～です」と言う練習をする。 (例)「りんごが好きです」</p> <p>② 教師の「～が好きですか」の質問に答える練習をする。 ・「～が好きです」 ・「～が好きではありません」</p> <p>③ スポーツの絵カードで同様の練習をする。</p> <p>④ ノートに応答を書く練習をする。 ・ぼく／わたしは～が好きです。 ・ぼく／わたしは～が好きではありません。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">★絵カード（食べ物、スポーツ）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いて繰り返すことが苦手な児童生徒もいるので、児童生徒が発話できるように、ゆっくり話したり、板書したものを読ませたりする。</li> <li>・黒板に例文を示すときには分ち書きをする。</li> </ul>
20	<p>3 「何が好きですか」という応答練習をする。</p> <p>① 教師が板書した「○○さんはりんごが好きです」を読む。</p> <p>② 「何が好きですか」に答える。 ・教師が「？」マークを書いた紙で「りんご」を隠す。 「○○さんは [?] が すきです」 ・「何？何？何が好きですか？」の教師の質問に答える。 (例)「ぼく／わたしは～が好きです」</p> <p>③ 同じ応答形式を練習する。 ・「何が好きですか」 →「ぼく／わたしは～が好きです」</p>	★「？」マークの紙 <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前ではなく、「ぼく／わたし」に変わることを確認する。</li> <li>・問いと答の役割を交代して練習させる。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 自己紹介をしよう2

目標：自分の学級や先生について答えることができる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p><b>1 質問に答える練習をする。</b></p> <p>① 教師の質問に答える練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さん、何年生ですか？ →〇年です。</li> <li>・(〇〇さん,) 何組ですか？ →〇組です。</li> <li>・(〇〇さん,) 先生の名前は？ →〇〇先生です。</li> </ul> <p>② 「〇ねん〇くみ〇〇せんせい」を書く練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えていないようならもう一度練習する。</li> <li>・何年何組ですか？という質問に答える練習もする。</li> </ul>
20	<p><b>2 自己紹介の練習をする。</b></p> <p>① 自己紹介シートを書く。</p> <p>② 二人一組で自己紹介をし合う。</p> <p>③ 友達の前で発表する。</p> <p>(例) 「ぼく／わたしは〇〇です」 「〇〇の〇〇から来ました」 「〇年〇組です」 「(先生は,) 〇〇先生です」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加(例) 「～が好きです／好きではありません」 「どうぞよろしく」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3日目に作成した自己紹介シートに書き足させる。</li> <li>・「はじめまして」から始めさせてもよい。</li> <li>・好きな食べ物、教科やゲーム等を加えさせてもよい。</li> </ul>
10	<p><b>3 音読の練習をする。</b></p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② 教師が読むのに続いて、みんなで読む。</p> <p>③ 一人ずつ読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れるまでは教師が読むのに続けて読ませるようにする。</li> <li>・負担にならないようにページや役割を決めるなど読む量を加減する。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材



## 時計を読もう

**目標：2桁の数を理解し、デジタル時計を読むことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																				
5	<b>1 日本語に慣れるために、仮名の歌を歌う。</b> ① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。 ② 「きゃきゅきよの歌」を歌う。	★平仮名表																				
15	<b>2 2桁の数を読む練習する。</b> ① 70～100までなど範囲を決めて、2桁の数字を読む。 ② 10刻みで100まで読む。 ③ 5刻みで100まで読む。 ④ 2刻みで30まで読む。 ⑤ 2桁の数字ビンゴをする。	★数字カード（数字表）を用意する。																				
20	<b>3 デジタル時計の時刻を読む練習をする。</b> ① カードを見て言う ・丁度の時刻〇時 ・10分刻み「〇じ〇ふん」 ・5分刻み「〇じ〇ふん」 ② 「ふん」と「ぷん」の使い分けを練習する。 ・教師が「1ふん、2ふん、3ふん……10ふん」と言うのを聞いて、真似をして言う。 ・「ふん」か「ぷん」かを聞き分ける。 1～10まで数字を書いて、教師が「ぷん」と言った数字に〇を付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <table style="border-collapse: collapse; margin: 0 auto;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">○</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">○</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">○</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">○</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">◎</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">○</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">2</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">6</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">7</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">8</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">9</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">10</td> </tr> </table> </div> ③ 1分刻みの時刻を読み、練習する。 (例) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 : 12</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 : 17</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8 : 23</span> など ④ 教師が言った時刻を聞き取って「〇じ〇ふん／ぷん」と書く。	○		○	○		○		◎		○	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	★時計を用意する。 ・ <b>37</b> 参照 ・児童生徒の既習内容によって、アナログ時計の絵を使って練習するのもよい。 ・8ふんと8ぷん、両方の言い方があることを説明する。 ・ぷんはカード <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">○</span> を挙げるなど、使い分けのための練習をする。 ・時計の学習は習熟までに時間がかかるので、定期的に練習する時間を取る。
○		○	○		○		◎		○													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10													

凡例：・留意点 ★教材

## 「何時から」を覚えよう

**目標：開始時間の言い方を理解し、表現することができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
10	<p><b>1 カレンダーの復習をする。</b></p> <p>① 「日、月、火、水の歌」を歌う。</p> <p>② 曜日の復習をする。 (例)教師が「月曜日」と言う。 →カレンダーの月曜日を指す。</p> <p>③ 「昨日、今日、明日」の復習をする。 (例)「今日何日?」「何曜日?」 「23日、何曜日?」 など ・一昨日、明後日を知る。</p> <p>④ 教師の曜日などの質問に答える。 (例)「明後日、何曜日?」→「水曜日」</p> <p>⑤ カレンダーで、「先月、今月、来月」「先週、今週、来週」を言う練習をする。</p>	<p>★<b>カレンダー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>33</b>参照、<b>35</b>参照</li> <li>・カレンダーで1月、2月、3月……12月まで言ったら、「今日〇月〇日」「明日、〇月〇日」と練習させる。</li> <li>・月は今月と先月、来月をカレンダーで示す。</li> <li>・週は、線で囲んで、今週、先週、来週など見て分かるようにする。</li> </ul>
10	<p><b>2 「〇時間目」という表現を理解し、練習する。</b></p> <p>① デジタル時計のカードを見て、〇時〇分と言う。</p> <p>② 教師が時間割を示して、1時間目、2時間目、……と言うのを聞き、後に続いて繰り返す。</p>	<p>★<b>日課、時間割</b></p> <p>★<b>デジタル時計カード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>37</b>参照</li> </ul>
22	<p><b>3 「〇時から」という表現を理解し、練習する。</b></p> <p>① 〇時間目の教科を話す言い方を理解する。 ・教師が時間割と日課を見せながら、「1時間目〇〇(教科名)です」と言うのを聞き、後に続いて繰り返す。</p> <p>② 2時間目以降を同じように練習する。</p> <p>③ 曜日や教科名を変えて練習する。 例 「水曜日、国語、〇時〇分からです」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりにくい場合は、時間割の「〇時間目」の横に時間を書き入れておく。</li> <li>・「から」をカード等で提示してもよい。</li> </ul>
3	<p><b>4 「〇時まで」の表現を聞く。</b></p> <p>○ 終わりのチャイムが鳴ったら、教師が時計を指して「〇時〇分です」「終わります」「〇時間目は、〇時〇分までです」と言うのを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時に、「まで」を使った表現について練習することを予告する。</li> </ul>

凡例：・留意点 ★教材

## 「何時から何時まで」を覚えよう

**目標：(授業の)始まる時刻、終わる時刻を言うことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
15	<p>1 「〇時まで」の表現について理解し、練習する。</p> <p>① 教師が、「〇時間目は〇時〇分からです」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>② 教師が日課を示して、「〇時間目は〇時〇分までです」と終わりの時間を言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>③ 〇時間目の部分を変えて練習する。 (例)「2時間目は10時30分までです」</p>	<p>・ <b>74</b> 参照</p> <p>・ 始業チャイムが鳴ったら、「時計を指して〇時〇分です、始めます」と話してから始める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★<b>掲示用日課、時間割</b></p> <p>時間割〇時間目の横に時間を書き込んでもよい。</p> </div>
20	<p>2 「〇時から〇時までです」の表現を練習する。</p> <p>① 教師が日課を示して「〇時間目は〇時〇分から〇時〇分までです」と言うのを聞いて、繰り返す。</p> <p>② 〇時間目を変えて、練習する。 (例)「2時間目は、9時45分から10時30分までです」</p> <p>③ 始まりと終わりの時刻を答える。 ・「〇時間目は、何時何分から何時何分までですか」→日課を見て答える。</p> <p>④ 〇時間目を変えて、練習する。</p> <p>⑤ 曜日を決めて国語、算数など教科の名前で②、③の練習をする。</p>	<p>・ 給食や掃除の時間を加えてもよい。</p>
10	<p>3 始まる時刻、終わる時刻を聞き取って書く。</p> <p>○ 教師が日課を示して「〇時間目は〇時〇分から〇時〇分までです」と言うのを聞き、日課(時間割)に書き込む。</p>	<p>★日課(時間割)プリント</p> <p>・ 時間を記入する欄を設けておくとよい。</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 月・週・日を表す言葉を覚えよう

**目標：月・週・日を表す表現を理解し、使うことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
20	<p><b>1 カレンダーを使って、今を基準にした月・日の言い表し方を復習する。</b></p> <p>① 「日、月、火、水の歌」を歌う。</p> <p>② 曜日の復習をする。 (例)教師が「月曜日」と言うのを聞き、カレンダーの月曜日を指す。</p> <p>③ 昨日、今日、明日の復習をする。</p> <p>④ 一昨日、明後日を学ぶ。 (例)「明後日、何曜日？」→「水曜日」</p> <p>⑤ 「今月／先月／来月」の表現を理解し、練習する。 ・教師がカレンダーの月を指して「○月」「今月」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・「先月／来月」も同様に練習する。</p> <p>⑥ 「今週／来週／先週」の表現を理解し、練習する。 ・教師がカレンダーの今週部分を線で囲み、今週のところを指して「週」「今週」と言うのを聞いて、繰り返す。 ・「先週／来週」も同様に練習する。</p>	<p><b>★カレンダー</b> 学級で使っているシンプルなものがよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他にも「今日、何曜日？」「23日、何曜日？」等の問いで練習するのもよい。</li> <li>・学年や習熟度に合わせて「去年／今年／来年」や西暦を和暦について指導してもよい。</li> <li>・カレンダーを見せながら練習させる。</li> </ul>
15	<p><b>2 「○日から○日まで」の表現を、練習する。</b></p> <p>① 教師がカレンダーを見せて、「今週、○日から○日まで」と言うのを聞き、真似をして言う。</p> <p>② 「来週」でも練習する。</p> <p>③ 教師が「夏休み、○月○日から○月○日まで」と言うのを聞き、真似をして言う。 ・言った日をカレンダーに印を付ける。</p> <p>④ 冬休みや春休みも同様に練習して、1年の大まかなスケジュールを知る。</p>	
10	<p><b>3 音読の練習をする。</b></p> <p>① 教師が読むのを聞く。</p> <p>② みんなで言う。 ・教師が読むのに続けて、繰り返す。</p> <p>③ 一人ずつ言う。</p>	<p><b>★音読資料</b> ・ <b>42</b> 参考</p>

凡例：・留意点 ★教材

## 時間割を読もう

**目標：時間割の見方を知り、読むことができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材																																										
5	<b>1 日本語に慣れるために仮名の歌を歌う。</b> ① 「かきくけこ、がぎぐげごの歌」を歌う。 ② 「きゃきゅきょの歌」を歌う。	★平仮名表																																										
15	<b>2 ○時間目の言い方について、復習する。</b> ① 「○時間目」の復習をする。 ・教師が時間割を示して「1時間目、2時間目……」と言うのを聞いて、繰り返す。 ② 「○時間目○時から」など、前時の復習をする。	★練習用の時間割 ・ <b>73</b> 参照  ・ <b>75</b> 参照																																										
25	<b>3 時間割を読み、答える練習をする。</b> ① 教科名の復習をする。 (例)教科書の上に、教科名を書いた平仮名カードを置く。 (例)教科名を書いた平仮名カードと漢字カードで神経衰弱をして、教科名の漢字の読み方を理解する。 ② 時間割を見て、読む練習をする。 (例)「(月曜日、) 1時間目○○ (教科名)」 ③ 教師の質問に、時間割を読んで答える。 ・「○曜日○○ありますか」 →「あります／ありません」 ・「明日、○○ありますか」 →「あります／ありません」 ・「(火曜日の) 2時間目は何ですか？」 ・「(水曜日の) 国語は何時間目ですか？」	・ <b>31</b> 参照 ・朝の会、帰り会、給食、そうじの時間なども取り入れるとよい。  ・読み練習例 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>月</th> <th>火</th> <th>水</th> <th>木</th> <th>金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td style="border: 2px solid blue;">?</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td>国</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ○ある、ないから「です、ます」の言い方に少しずつ慣れさせていく。  凡例：・留意点 ★教材		月	火	水	木	金	1	社					2		?				3						4			国			5						6					
	月	火	水	木	金																																							
1	社																																											
2		?																																										
3																																												
4			国																																									
5																																												
6																																												

## 時間割をそろえよう

**目標：時間割を読み、時間割の用意をそろえることができる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 曜日の歌を歌う。</b> ○ 「日、月、火、水の歌」を歌う。	<b>★曜日</b> について、言い慣れることを目指す。
15	<b>2 時間割を読む練習をする。</b> ① 教科書の名前を書いた平仮名カードを読んで、漢字カードを取るゲームをする。 ② 自分の時間割に読み仮名をつける。 ③ 曜日を決めて時間割を言う。 (例)「(月曜日,) こくご、さんすう……」	<b>★平仮名カード、漢字カード(教科名)</b>  <b>★自分の時間割</b> 読み仮名を付けられる大きさを用意する。
15	<b>3 時間割を見て教科の用意をそろえる。</b> ① 教師が言った名前の教科の用意を、「これです」と言って教科書を持ち上げる。  ② 曜日を決めて時間割をそろえる。 ・何回か練習する。	<b>★教科書</b> かばん等も持参させると用意の練習ができる。  ・ノートも確認できるとよい。 ・目標時間を決める等、楽しみながら学べるようにする。 ・基本的な教科書、ノートだけになるので、学級で追加の持ち物を確認してもらえよう在籍学級の担任に話しておくとうよい。
10	<b>4 音読の練習をする。</b> ① 教師が読むのを聞く。 ② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。 ③ 一人ずつ読む。	<b>★音読資料</b> ・ <b>42</b> 参考

凡例：・留意点 ★教材

## 好きな時間割を作ってみよう

目標：時間割について、聞いたり答えたりできる。

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 曜日の歌を歌う。</b> ○ 「日、月、火、水の歌」を歌う。	★曜日について、言い慣れることを目指す。
20	<b>2 時間割について、聞いたり答えたりする練習をする。</b> ① 児童生徒の時間割について、教師の質問に答える。 ・「○曜日、○○（教科名）がありますか？」 →「ある／ない」 ・「○曜日、○時間目は何ですか？」 →「○○（教科名）です」 ② 時間割について質問する。 ・「○曜日、○○（教科名）がありますか？」 →「ある／ない」 ・「○曜日、○時間目は何ですか？」	★時間割  ・習熟度に合わせて、「あります／ありません」と丁寧に答える言い方を指導してもよい。  ・②では、児童生徒の質問に教師や他の児童生徒が答える。 ・他の教科の授業の有無について、聞けるようになるとうよい。
20	<b>3 好きな時間割を作る。</b> ① 自分の好きな時間割を作る。 ② 作った時間割を発表する。 (例)月曜日1時間目 体育、2時間目 理科……	★時間割の作り方 ・ある曜日だけ空欄にしたり、時間割を教科ごとに切って並べ直したりするなど、作る方法を工夫する。

凡例：・留意点 ★教材

## 曜日の漢字を覚えよう

**目標：曜日を表す漢字を読んだり、書いたりできる。**

時間	児童生徒の活動	指導上の留意点・教材
5	<b>1 曜日の歌を歌う。</b> ○ 「日、月、火、水の歌」を歌う。	★曜日について、言い慣れることを目指す。
30	<b>2 曜日を表す漢字を理解する。</b> ① カレンダーを見て「にちようび、げつようび……どようび」と読む。 ② 平仮名の曜日カードを作る。 ③ 曜日を表す漢字を理解する。 ・「日曜日」と言ったら、教師が日と書いたカードを見せる(板書でもよい)。日曜日から土曜日までの漢字を見る。 ④ 「日」と書いたカードを上からなぞる。書き順を確認して、日から土までの漢字をなぞる。 ⑤ 平仮名曜日カードと、漢字カードを合わせる。 ⑥ 平仮名曜日カードと漢字カードで神経衰弱をする。 ⑦ 漢字カードを「日ようび」から「土ようび」まで並べる。	★カレンダー ★白いカード(平仮名曜日用) ★漢字曜日カード 下記例のように「ようび」は平仮名でよい。 ○最初は「日ようび」と書いて「日」は「にち」の部分に当る字だということを伝える。
10	<b>3 音読の練習をする。</b> ① 教師が読むのを聞く。 ② みんなで読む。 ・教師が読むのに続けて繰り返す。 ③ 一人ずつ読む。	★音読資料 ・42参照

凡例：・留意点 ★教材

